

ルシファー(サタン)はもとは「守護ケルブ」であった

この考えの根拠は、主にエゼキエル書28:12~18およびイザヤ書14:12~15に基づいています。ここでは、「ティルス(口語訳:ツロ)の王」に対する神の宣告が記されていますが、これは人間の王ティルスではなく、霊的存在(つまりサタン)を象徴していると思われます。

→**ティルス(口語訳:ツロ)の王**=**墮落前のルシファー**→イザヤ14:12=ああ、お前は天から落ちた／明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた／もろもろの国を倒した者よ。

☞エゼキエル書28:12~18

12「人の子よ、ティルスの王に対して嘆きの歌をうたい、彼に言いなさい。主なる神はこう言われる。お前はあるべき姿を印章としたものであり／知恵に満ち、美しさの極みである。13お前は神の園であるエデンにいた。あらゆる宝石がお前を包んでいた。ルビー、黄玉、紫水晶／かんらん石、縞めのう、碧玉／サファイア、ざくろ石、エメラルド。それらは金で作られた留め金で／お前に着けられていた。それらはお前が創造された日に整えられた。14わたしはお前を／翼を広げて覆うケルブとして造った。お前は神の聖なる山にいて／火の石の間を歩いていた (→欽定訳：Thou art the anointed **cherub that covereth**[あなたは、油を注がれた**覆いのケルブ**である]; and I have set thee so: thou wast upon the holy mountain of God; thou hast walked up and down in the midst of the stones of fire. 口語訳：14わたしはあなたを油そそがれた／守護のケルブと一緒に置いた。あなたは神の聖なる山にいて、／火の石の間を歩いた)。15お前が創造された日から／お前の歩みは無垢であったが／ついに不正がお前の中に／見いだされるようになった (→口語訳：あなたは造られた日から、／あなたの中に悪が見いだされた日までは／そのおこないが完全であった)。16お前の取り引きが盛んになると／お前の中に不法が満ち／罪を犯すようになった。そこで、わたしはお前を神の山から追い出し／翼で覆うケルブであるお前を／火の石の間から滅ぼした。17お前の心は美しさのゆえに高慢となり／栄華のゆえに知恵を墮落させた。わたしはお前を地のの上に投げ落とし／王たちの前で見せ物とした。18お前は悪行を重ね、不正な取り引きを行って／自分の聖所を汚した。それゆえ、わたしはお前の中から火を出させ／お前を焼き尽くさせた。わたしは見ている者すべての前で／お前を地上の灰にした。

以上の聖句から分かることは、以下のとおりである。

1. 「お前は神の園であるエデンにいた」
→これは単なる人間の王ではなく、霊的存在を指している。エデンの園にいたのはアダムとエバだけではなく、蛇(サタン)もいた(創世記3章)。
2. 「わたしはお前を／翼を広げて覆うケルブとして造った」(口語訳：「わたしはあなたを油そそがれた／守護のケルブと一緒に置いた」)。
→ケルブ(ケルビム)は、神の御前に仕える高位の天使的存在であり、エデンの園の守護者でもあった(創世記3:24)。この記述は、ルシファー(サタン)がもともとケルブだったことを示唆している。
3. 「お前が創造された日から／お前の歩みは無垢であったが／ついに不正がお前の中に／見いだされるようになった(→口語訳：あなたは造られた日から、／あなたの中に悪が見いだされた日までは／そのおこないが完全であった)」。
→これは、墮落前のサタンが完全な存在であったが、後に墮落したことを示している。

☞イザヤ書14:12~15

ああ、お前は天から落ちた／明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた／もろもろの国を倒した者よ。13かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り／王座を神の星よりも高く据え／神々の集う北の果ての山に座し14雲の頂に登って／いと高き者のようになろう」と。15しかし、お前は陰府に落とされた／墓穴の底に。

→「ああ、お前は天から落ちた／明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた」(イザヤ4:12) この「明けの明星(ルシファー)」がサタンを指しているが、ケルブであったとは記していません。

ただし、「お前は陰府に落とされた」という描写は、エゼキエル書の記述（エゼキエル書28:17bわたしはお前を地の上に投げ落とし）と関連していると考えられます。

以上から、ルシファーは高位の天使（ケルブまたはセラフィム）であったが、高慢（エゼキエル28：17 お前の心は美しさのゆえに高慢となり）や傲慢（→イザヤ14：14 いと高き者のようになろう）によって墮落したとされています。

→エゼキエル28章等の記述から、ルシファー（サタン）がもともと「守護のケルブ」であったが、後に墮落して追放されたことが分かります（聖書で「ルシファー＝ケルブ」と明記しているのではなく、比喩的解釈）。

2025/03/09 証の書等から 辻兄

神に反逆したのはすばらしい力と栄光を持った者であった。ルシファーについて、主は、「あなたは知恵に満ち、美の極みである完全な印である」と言っておられる（エゼキエル 28：12）。ルシファーは覆う（KJV:covereth）ことをなす天使(cherub)であった。彼は神のご臨在の光の中に立っていた。彼はすべての被造物の中で最高の者であって、神の意図が宇宙に知られるときには1番先に彼に知らされた。罪を犯してから、彼のあざむく力はますます欺瞞的になり、彼が天父とともに高い地位を保っていたためにその正体をばくろすることがますます困難となった。（希望への光 p1078）

Lucifer had been the covering cherub. He had stood in the light of God's presence. He had been the highest of all created beings,・・・ (DA p748)

上の文章より、私は「覆う」とは神の御座を覆うという意味だと考えます。

そして「彼は神のご臨在の光の中に立っていた」という「神のご臨在」が「神の御座」で「光」が「シェキーナ」ではないかと思っています。

エゼ28：14のKJV: I have set thee so:・・・となっているので、「そこにあなたを置いた（set）」となっているので「恵みの御座の上に置いた」と表現してあるような気がします。新共同ではそうはなっていませんが、口語訳では一對となっている他の「**守護ケルブと一緒に置いた**」という訳に符合する気がしています。